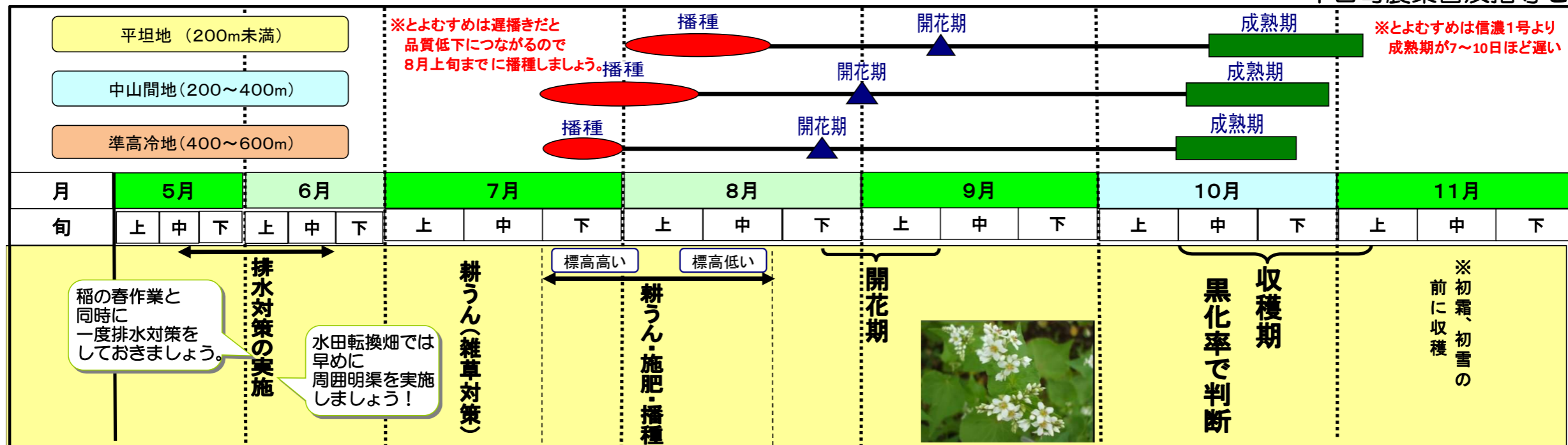


# 十日町・津南地域版 そば栽培暦

令和8年4月発行  
十日町農業普及指導センター



## 1 排水対策

- そばは**湿害にきわめて弱い**ので排水対策を徹底する。
- 対策①: 周囲明渠は深さ30cmを確保(特に水田転換畑)
- 対策②: 深耕や弾丸暗渠による排水性の向上
- 対策③: 団地化による周囲からの水の侵入防止

畝立て播種を併せて行くと苗立ちが安定します!

## 2 耕うん・整地

- ほ場が均平になるように作業を行う。
- 碎土率70%以上、耕深15cmを目標に、丁寧に耕うんする。
- 播種までの期間が空くと雑草が発生しやすくなるため、播種直前に耕うんする。

## 3 施肥

- 右表を参考に施用する。
- 土壌pHは6.0~6.5に酸度矯正する。
- リン酸、カリは耐倒伏性や稔実を高める。
- 窒素過多は倒伏を招くため、地力に応じた施肥を行う。

施肥設計のめやす

肥料	施用量(kg/10a)	
牛ふん堆肥	750~1,000	
消石灰	80~100	
基肥	N	1~3
	P	4~8
	K	5~10

## 4 播種 初霜、初雪の前に収穫できるように播種日を設定!

- ①播種量のめやす: 散播 7~8kg/10a  
条播 5 kg/10a
- ②播種量は、早まきではやや少なめ、遅まきではやや多めにする。
- ③条播の場合、覆土は2~3cm。土壌が乾いている場合は、覆土後鎮圧をする。

は種期のめやす

平地 (標高200m以下)	8月上~中旬
中山間地 (標高200~400m)	7月下~8月上旬
準高冷地 (標高400~600m)	7月下旬

## 5 雑草防除

- 帰化アサガオ類は、ほ場へ侵入するとつるがそばにからみつき、甚大な被害をもたらすため、見つけしだい根こそぎ除去する。
- ※そばほ場内で使用できる農薬が無い場合、手取り除草を行う。



## 6 適期収穫

- 収穫は必ず子実の黒化率を確認して、判断する。
- ※黒化率とは、成熟して果皮が黒色になった子実の粒数割合のこと。
- 黒化が進むにつれ、脱粒しやすくなる。また、近年は収穫適期頃の台風による強風被害が多くなっている。そのため、ほ場の黒化率を把握し、計画的に収穫する。

### 収穫適期の判定方法

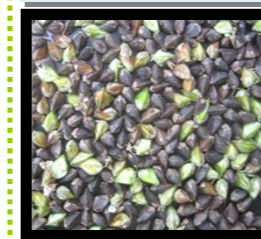
○黒化率は、一番上(主茎頂部)の集合花房の黒化率で判断する。



## 7 乾燥・調製

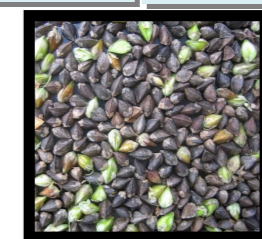
- 〔循環型穀物乾燥機〕
- 乾燥温度は35℃(穀温30℃程度)、仕上げ水分は15%とする。仕上げ水分が高いとカビが発生し、過乾燥では玄そばの割れが起こる。
- 水分20%程度までは、15分循環乾燥と間欠循環乾燥(通風したまま3時間循環を休止する)を繰り返し、その後は通常の連続循環乾燥をする。

①選別・調製ができる場合  
黒化率70~80%で刈取

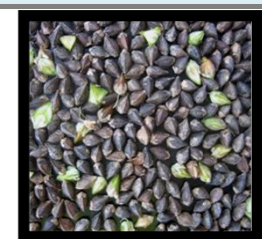


黒化率70%

②選別・調製ができない場合  
黒化率80~90%で刈取



黒化率80%



黒化率90%

○そばの風味が強い  
○未熟粒・莢雑物が多い

○未熟粒・莢雑物が少ない  
○脱粒しやすい